

石灰窒素の毒性試験の概要

電気化学工業株式会社

薬剤の概要

石灰窒素は窒素質肥料として1908年に生産技術が導入されると共に、農薬としての研究も同年頃から始まり、広範な効果が明らかにされてきた。

農薬として1957年（昭和32年）に登録をし、その後、さらに適用拡大を行ない、現在は除草、殺菌、殺虫、休眠覚醒、茎葉枯渇（植物生育調節）の効果が認められている。

本剤の化学成分（主成分）のカルシウム シアナミド (CaCN_2) は水と反応しシアナミド (H_2CN_2) を遊離する。本剤の農薬効果はシアナミドの生物活性によるものであり、毒性に関する試験も一部はこれを使用した。

理化学的性質は次のとおりである。

化 学 名 : Calcium cyanamide

分 子 式 : CaCN_2

化 学 構 造 : $\text{Ca} : \text{N} \cdot \text{C} : \text{N}$

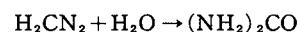
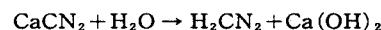
細 成 : カルシウム シアナミドを40~60%、副成

分として、酸化カルシウムまたは水酸化カルシウムを約20%、その他炭素、鉄、珪素などを約20%を含む。

性 状 : 灰黒色粉末または粒状、特有の臭氣を有する。

比 重 : (見かけ比重) 1.1~1.2

解 説 : カルシウム シアナミドは土壤中で尿素を経て、アンモニアと炭酸ガス、および水酸化カルシウムに分解される。これに要する期間は土壤の条件（地温、水分など）によって異なるが、5~10日間である。



急性毒性試験

石灰窒素のラット、マウス、犬に対する急性毒性試験の結果は表のとおりである。投与方法は本剤を水に溶かし投与した。

表 急性毒性試験成績

投与経路	動物種	毒 性 値	研究機関 () 報告年
皮下注射	ラット	$\text{LD}_{50} 450\text{mg/kg}$	金沢大学医学部 (昭和35年)
経 口	ラット	$\text{LD}_{50} 700\text{mg/kg}$	同 上 (同 上)
皮下注射	マウス	$\text{LD}_{50} 680\text{mg/kg}$	同 上 (同 上)
皮下注射	犬	$\text{LD}_{50} 150\text{mg/kg}$	同 上 (同 上)
吸 入	ラット	$\text{LD}_{50} 120\text{mg/kg}$	同 上 (同 上)
経 皮	ラット(雄)	$\text{LD}_{Lo} 2,000\text{mg}$	株三菱化成安全科学研究所 (平成3年)
経 皮	ラット(雌)	$\text{LD}_{Lo} 1,400\text{mg}$	同 上 (同 上)

マウスおよびラットに対する亜急性毒性試験

試料としてシアナミド（カルシウムを除く）を使用した。

1. 一群10匹のマウス (NH II均一系、体重16~19g) にシアナミド30mg/kgを93日間摂取させた。シアナミドの経口急性毒性 LD_{50} は334mg/kgである。

実験期間中の行動、健康状態、体重の増加（成長曲

線）、その他外観上に異状は認められない。

肉眼的剖見観察では小腸に部分的軽度の炎症が3/10例で見られたのみで、他の臓器および組織学的検査でも特別な異状は認められない。

2. 一群10匹のラット (C系均一系ラット、雄 体重130g前後) にシアナミド50~3,125mg/kgを93日間投与した。シアナミドの経口急性毒性値は $\text{LD}_{50} 168\text{mg/kg}$ である。

50mg/kg投与群にのみ発育の抑制が認められ、全身的に逆毛、疎毛となり、毛につやが無く、水餌の摂取量は少なく、健康状態は劣ったが斃死するには至らない。

投与開始後30日頃より全身性の持続的震顫状態が発現し、実験中継続した。

組織の調査では、50mg/kg投与したラットの脳神経細胞に軽度な変性、胃粘膜上皮の角化像が見られたが、他の組織には特記するような変化は認められない。

(吉富製薬株昭和37年)

細菌を用いた変異原性試験

シアナミドを *Bacillus subtilis* H17, M45株に用いた Rec-assay の結果は陰性である。

Salmonella typhimurium TA98 TA100株に用いた肝臓の薬物代謝酵素系 (S-9mix) による代謝活性を含む復帰変異試験の結果、高濃度のシアナミド (10,000 µg/plate) において、S-9mix の存在下のみで TA100 株に弱い変異原性を示す。

(残留農薬研究所 昭和55年)

一般薬理試験

ヒトにシアナミド50~60mg/kgを投与すると、アルデヒド酸化（脱水）酵素を阻害し、アルデヒドの代謝を著しく阻害する。これにより、慢性アルコール中毒症の治療に用いられる。このためシアナミドが長期投与（1~2年）される場合があるが、副作用および慢性毒性は認められていない。

植物（ノビエ）のカタラーゼ活性を一時的に強く阻害し、呼吸量を低下させる。

(安藤春彦 精神経誌1963年、井上克巳 日土肥誌 1971年)

石灰窒素製造メーカーおよび業界団体

日本カーバイド株 03-3240-8615

電気化学工業株 03-3507-5247

シンエツ化成株 03-3293-3501

日本石灰窒素工業会 03-3573-3941